
伊勢崎市学校規模の適正化に関する
基本方針検討委員会

平成26年7月28日

伊勢崎市教育委員会

開催年月日
開催の場所

平成26年7月28日(月)
伊勢崎市役所 東館5階職員研修室

◇ 会議日程 ◇

第1 開会

第2 議事

- (1) 文部科学省における学校規模適正化に関する検討経過について
- (2) 他都市にみる小中学校の適正規模について
- (3) 小中学校の適正規模に関するアンケート調査結果について
- (4) 本市における学校規模の適正化に関する考え方及び適正規模について

第3 その他

第4 閉会

※出席委員

- 1番 立見康彦
- 3番 高畑博
- 4番 新井周雄
- 5番 石原伊知男
- 6番 栗原好夫
- 7番 武井茂雄
- 8番 五十嵐武
- 9番 吉田信一
- 10番 石井秋治
- 12番 本田稔
- 13番 田島昇
- 14番 中島啓元
- 15番 吉野和仁
- 16番 小林英司

※欠席委員

- 2番 塩野信敏
- 11番 板垣繁實

※出席者

- 教育長 徳江基行
- 教育部長 越須賀隆一
- 教育部副部長 中島仁
- 総務課長 細井篤
- 学校教育課長 井上貴夫
- 書記 田部井恵美子
- 書記 日向野佑美

開 会	<p>—— 開会宣言 ——</p> <p>委員長から開会宣言があった。</p>
議 事	<p>—— (1) 文部科学省における学校規模適正化に関する検討経過について——</p> <p>—— (2) 他都市にみる小中学校の適正規模について——</p> <p>総務課長より、配布資料について一括説明がされた。</p> <p>《委員》 小学校は1学年2～3学級、中学校は1学年4～6学級が望ましいでしょう。それを下回ると、指導形態がとれなくなる上、職員の過重負担になります。なお、小学校の1学年4学級というのは、全体を掌握できる規模なのか甚だ疑問です。</p> <p>—— (3) 小中学校の適正規模に関するアンケート調査結果について——</p> <p>総務課長より、配布資料について説明がされた。</p> <p>《委員》 適正規模というのは、幅が広いと思います。これでは多すぎる、これでは少なすぎると決めるのではなく、その間が適正なのではないでしょうか。そのため、子どものクラス編成が一番の問題です。クラス変えの際、1学年2クラスしかないのでは、半分しかクラスメートが変わらないことになるので、子ども達の交流の観点からすれば、3～5学級の幅は必要でしょう。中学校については、担当できる先生がいるかいないかが問題です。何学級あれば正規の免許を持った先生が全てのクラスを担当できるのか、そこを考慮した学級数を決める必要があります。</p> <p>《委員》 学校経験のない立場からしても、先ほどの委員の意見に同意します。</p> <p>《委員》 私の町内は2校区に分かれています。校区の中では、お祭りや運動会、育成会などで交流がありますが、学校区が違くと友達が少ないという現状がある気がします。その点から考えると、学校区を一緒にするのがよいのではないのでしょうか。</p>

《委員長》

適正規模を考える上で、行政区を考慮するのは、とても大事ですね。

《委員》

私の担当する区にある小学校及び中学校は、適正規模であると思います。

《委員》

中学校は学級数が偶数の方が、共同で行う教科に関しては都合が良いでしょう。しかし、8学級である中学校では、全学年が体育館に入りきらないという問題が生じますので、中学校は4学級か6学級、小学校は4学級ないしプラスマイナス1がよいのではないのでしょうか。

《委員》

私の担当区も10行政区あり、3学校区に分かれています。大人は昔からの付き合いがあると思いますが、子ども達のコミュニケーションの機会を増やした方がいいのではないかと心配しています。

また、適正な通学距離についても考慮した方がいいでしょう。昔は4・5キロ歩いたものですが、今は1キロでも遠いという人がいますからね。

更に、区長が1人でいくつかの学校行事に行くという現状や、教員が忙しく、夜遅くまで働いているということについても気になっています。

《委員長》

適正規模だけでなく、適正配置ということも重要ですね。

夜遅くまで残っている教員については、その理由を説明する必要がありますね。地域への学校理解というものも重要です。

《委員》

小学校の18～24学級は多い気がします。

私の担当する地区も学校区が分かれており、学校ごとに特色があり、助成金の額も違うので、行政側は苦労しています。

また、本地区では少子化が進んでいるので、町内の行事にも子どもが集まりません。このような問題を抱える行政区にとっては特に、適正化の問題は重要です。

また、今は親が学校を選ぶ時代であり、伊勢崎市に住みながら、市外の学校へ子どもを入れる親もいます。そこで旗振り当番をしなくてはならないのかという相談を受けるなど、現代社会特有のぎくしゃくした問題が生じています。

更に、中等教育学校のような競争率の高い学校へ入れようとする親の意向により、子どもが挫折を味わってしまうのではないかと、心配でもあります。

《委員長》

今回の適正規模を検討する場では、そのような問題までは踏み込めませんが、それらの問題を度外視しての適正規模を考えてはいないというアピールは必要ですね。

《委員》

アンケート結果などの資料がとてもよくできていると思います。また、区長さん方もとても研究していらっしゃるという印象を受けました。

《委員》

区長として、入学式や運動会をみてきて、グラウンド等の状況をみても、小中とも4クラスが妥当と思います。

通学距離が長く大変な子どももいるようなので、考慮して欲しいと思います。

《委員》

子ども達にとって、交流するということは非常に重要であり、教員の間でもどのように交流の場を増やそうかということの研究をしています。そのような観点からすると、1学年、3～4学級が適正だと思います。

保護側からしても、どの先生に見てもらおうかというのは非常に重要であり、色々な先生に見てもらった方がいいので、2学級であると少ないと思われます。

アンケート結果は、いいところをついている気がします。

《委員長》

アンケートによると、12～24学級が適正だと思う意見がほぼ100%を占めていますね。

《委員》

私もこのアンケートをみて、経験に基づいた真剣な意見が出されていると感じました。

また、1学年2クラスの学校では、正規の教科職員が全てのクラスに配置できず、家庭科のような科目で、小規模校非常勤という先生がついています。

一方、大規模な学校は全体の掌握ができなくなります。

考え方としては、小学校は12学級～24学級、中学校は12学級～18学級というように、上限を小中に変えるということもできるのではないのでしょうか。

これから、この適正の範囲から外れた学校をどうするか現状を見ながら考える必要があります。

《委員》

保護者として、統廃合されたとき、通学がどうなるのかが気になります。通学距離が長いと、交通量が多いことによる事故や、誘拐などの防犯の心配があります。現場の意見だけでなく、地域住民として、また保護者としての適正も考慮したいと考えます。

《委員》

小学校は18学級を越えても、そこまで影響はないと思いますが、中学校は18学級～23学級では多いと思います。

また、クラス数以前に、教室や体育館が狭い等の設備の問題や、教員数の問題も解決しなくてはならないでしょう。

《総務課長》

—（４）本市における学校規模の適正化に関する考え方及び適正規模について—

総務課長より、配布資料について説明がされた。

《委員長》

おぼろげながら、小学校は12～24学級、中学校は12～18学級が適当ではないかという方針がみえてきましたね。

資料を参考にして、ここに配慮して次回の資料提供して欲しいという内容があれば、事務局に提案しましょう。挙手願います。

委員が各々挙手した。

《委員長》

意見を聞いた結果、

- ・人間関係の構築に伴う資質・能力の向上
- ・教員の配置、確保に関すること

以上の二項目を重視したいという意見が多かったようです。

本日は、委員の意見が様々あったということで、継続審議とします。

次回は、いつ適正化が実施されるのか、また、対象校も少し決めていきたいと考えます。

その他

———その他の事項———

事務局から、次回の会議の日程等連絡事項があった。

閉会	——閉会宣言—— 委員長から閉会宣言があった。
----	----------------------------

平成26年7月28日

伊勢崎市教育委員会